

綱 領

- われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
- われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
- われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。



# 日赤新労

平成29年  
3月15日  
発行  
第236号

発行所

日本赤十字新労働組合連合会  
(日赤新労)  
東京都港区芝大門1-16-11茶乃木ビル5F  
TEL (03) 3433-3028  
FAX (03) 3432-4560  
Eメール shinro@shinro.org  
ホームページ http://www.shinro.org/  
発行責任者 内海和彦

## 第56回定期全国大会開催

### —今年度運動方針案等を審議—



二月十九日から二十一日の三日間、温暖な気候と豊かな自然に恵まれた静岡県浜松市の「ホテルコンロード浜松」において、全国より代議員及びオブザーバー等百十五名の参加のもと、第五十六回定期全国大会が開催された。会議では、平成二十九年運動方針案や要求書案、予算案等について慎重な審議が行われ、新執行体制のもと、本年度も要求獲得に向けて力強く前進していくことを確認した。

初日の十九日は、開会のことばの後、出席者全員による日赤新労労働歌斉唱が行われ、資格審査・成立確認を経て大会役員及び議長団が選出された。議長には星野哲也氏(原町日赤)、副議長に山田裕貴氏(愛知血七)、書記に鳴海敦浩氏(青森血七)。

次いで、山本中央執行委員長が挨拶に立ち、次のように述べた。

「平成二十八年賃金交渉に際しては、要求額の定昇込み三・〇%(二万二千円)には届かなかったものの、初任給及び若年層を中心に千五百円程度の引上げ、その他については四百円程度の引上げで、俸給表そのものは平均〇・二%の引上げとなりました。また、今回もより一層組織の活性化を図り、諸要求を運動に反映させるため『統一と団結の力』を最大限発揮し、人当たり千九百円の引上げとなり、定昇込みでは平均一・七二%、一人当たり六千三百四十六円の改正となりました。諸手当においても、医師確保調整手当の定額分について、支給月額限度が四十二万三千八百円に引き上げられ、平成二十八年四月一日から実施することです。平成二十八年十月七日に妥結し、三年連続の賃上げ妥結となりました。」

さて、日本赤十字社の決算報告について、平成二十七年は大変厳しい状況となっており、医療施設特別会計においては百四十二億円の赤字決算、会計単位では九十施設中六十施設が赤字決算となっています。また、血液事業特別会計においても十七億五千万円の赤字決算となっており、平成二十八年度も大変厳しい状況が続くと思われ、医療施設においては、今後、二〇二五年問題などで医療費の増加が見込まれる中、経営は大変厳しい状況に陥っていることが明らかで、我々連合体は、引き続き諸先輩方々が築き上げた『労使協調・良識ある組合活動』の基本路線を受け継ぎ、常に時代の変化を見据えながら

単組活動報告において、各単組代表者から資料に基づいて補足説明を加えながら施設交渉やレク活動等の報告が行われ、活発な質疑応答の後、賛成多数で承認された。

大会二日目は審議事項から始まり、議題である平成二十九年運動方針案、予算案等について審議が行われ、要求書案においては基本賃金の引上げを定昇込み三・〇%(二万二千円)とするなど、その他の要求書案については第三回中央委員会承認された。

最後に、三原赤十字病院



## 浜松大会宣言

日本赤十字新労働組合連合会は、第五十六回定期全国大会を、浜松城に見守られた歴史あまら静岡県浜松市「ホテルコンロード浜松」において盛大に開催した。私たちは平成二十九年運動方針として、

- 実質賃金の獲得と豊かでのゆとりある生活の実現
- 労働時間短縮と完全週休二日制の実施
- 教宣活動の強化と組織の団結及び活性化
- 勤務評定の完全実施と人材育成
- 定年年齢の引上げと老後保障の充実
- 福利厚生の実現と活力ある職場環境の実現

以上の六項目をスローガ



平成二十九年  
全国会議開催予定

## 基本賃金の引上げ 三・〇%に決定

- 報告事項■
- 一、各部報告
  - 二、一般経過報告
  - 三、会計収支決算報告
  - 四、会計監査報告
  - 五、単組活動報告

## ■審議事項■

- 一、平成二十九年運動方針案について
- 二、要求書案について
- 三、スローガン及び闘争方針案について
- 四、原案と決定された。
- 五、基本賃金の引上げは定昇込み三・〇%(二万二千円)、その他諸手当等についても

## 第1回中央委員会

平成29年5月14日(日)～15日(月)  
東京都港区芝浦1-3-10  
「チサンホテル浜松町」



○組合ホームページのパスワード変更について  
詳細は「連絡第一七五二号」をご参照ください。

○第五十七回定期全国大会  
平成三十年  
二月十八日～二十日



# 平成29年度本部役員

- 中央執行委員長 **山本 俊一** (鳥取日赤)
- 中央副執行委員長 **佐久間直紀** (千葉血七)
- 中央副執行委員長 **小室 勝彦** (秦野日赤)
- 中央書記長 **内海 和彦** (石巻日赤)
- 中央会計 **安井 智一** (三原日赤)
- 中央執行委員 **山鹿 彰** (名一日赤)
- 中央執行委員 **黒田 優** (山形血七)
- 中央執行委員 **伊藤 高敬** (東海北陸BBOC)
- 会計監査委員 **西 留美** (今津日赤)
- 会計監査委員 **大橋 宏彰** (大津日赤)

## 就任にあたって

中央執行委員長

**山本 俊一**

この度、第五十六回定期全国大会にて中央執行委員長に承認をいただきましてありがとうございます。

当組合は、平成二十二年から発足以来の悲願であった筆頭組合となり、名実共に日赤における労働者の代表となつていきます。我々連合体は、従来にも増して発言力・影響力が高まることは疑いなく、引き続き諸先輩の方々が築き上げた「労働者・良識ある組合活動」の基本路線を受け継ぎ、常に時代の変化を見据えながら問題の的確に対応していかなければなりません。

さて、ここ最近の内閣府発表の月例経済報告では、「景気は、緩やかな回復基調が続いている。」と発表されているにも関わらず、

を勝ち取つてはいますが、大変厳しい状況は否めないと思います。

また、諸要求項目についても、薬剤師六年制卒の昇格基準の見直し、週休二日制完全実施など交渉事項は実感できていません。また、山積しており、今後の各ブロック会議、中央委員会等にて組合員の皆様の意見を

中央書記長

**内海 和彦**

第五十六回定期全国大会で信任を頂き、本部役員として任じました石巻赤十字病院の理事を務めております。配属は石巻赤十字病院です。

以前に本部役員を六年間務めていたことが、今では中央書記長という大きな責任を受け、身が引き締まる思いで一杯です。中央書記長の仕事は初めてなので、フロアの皆様方にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、

## 新任挨拶

巻赤十字看護専門学校で、多くの学生とジョーク言いながら勤務をしています。

以前に本部役員を六年間務めていたことが、今では中央書記長という大きな責任を受け、身が引き締まる思いで一杯です。中央書記長の仕事は初めてなので、フロアの皆様方にはご迷惑をおかけするかもしれませんが、

## 職員組合結成 十周年を迎えて

清水赤十字病院職員組合

当組合も早いもので、本年五月に結成十周年を迎えました。断水、停電、道路・鉄道の寸断などで日常生活も大変な中、病院自体には被害が無く、自衛隊の給水に恵まれました。

「サレレス」残業は「赤十字は奉仕の精神で」、納得のいかない事も「本社の通達だから」。また、「ポナ」は出ないかも」など数々の常套句も、組合結成後は聞かれなくなりまし



## 魔法のランプが 組合員を引き寄せる

芳賀赤十字病院職員組合

当組合では、組合員同士の親睦及び組合員家族を含めた福利厚生を目的とし、二月二十二日(日)に日帰り旅行を開催しました。

旅行内容は、山田隆幸元執行委員長が企画して以来毎年恒例となっている「劇団四季鑑賞ツアー」です。

最後に、会場内がスタンディングオベーションになる程の盛り上がりを見せました。

福利厚生を開催するにあたり、準備など苦労も多いですが、来年度以降も執行部一丸となって頑張りたいと考えています。

(執行委員長 飯野 誠)

## 退職のご挨拶

この三月末で退職することになりました。退職後は福島県の片田舎で一人暮らしをしています。そちらに帰ることにしています。

入職してから約二十七年間、組合員の皆様、歴代の本部役員の皆様には大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。

遠く福島から、日赤新労の益々の発展をお祈りしております。

(事務局 中野裕子)

## 退任挨拶

前中央書記長

**河崎 勝自**

中央執行委員一年と中央書記長二年の間ではありましたが、執行部と事務局の皆様や全国の組合員の皆様方のご支援とご協力により、なんと本部役員を務めることができ、深く感謝申し上げます。

振返りますと、団体交渉等でも特に活躍できなかったことや、急遽退任となつてしまつて、第三ブロックの方々にご迷惑をおかけ

中央執行委員

**黒田 優**

(山形血液センター) このたび平成二十九年定期全国大会で就任いたしました。第一ブロック山形赤十字血液センターの黒田優です。

血液センターに勤めて二十一年間が経ちますが、血液事業の在り方は常に変化



日赤新労第56回定期全国大会

